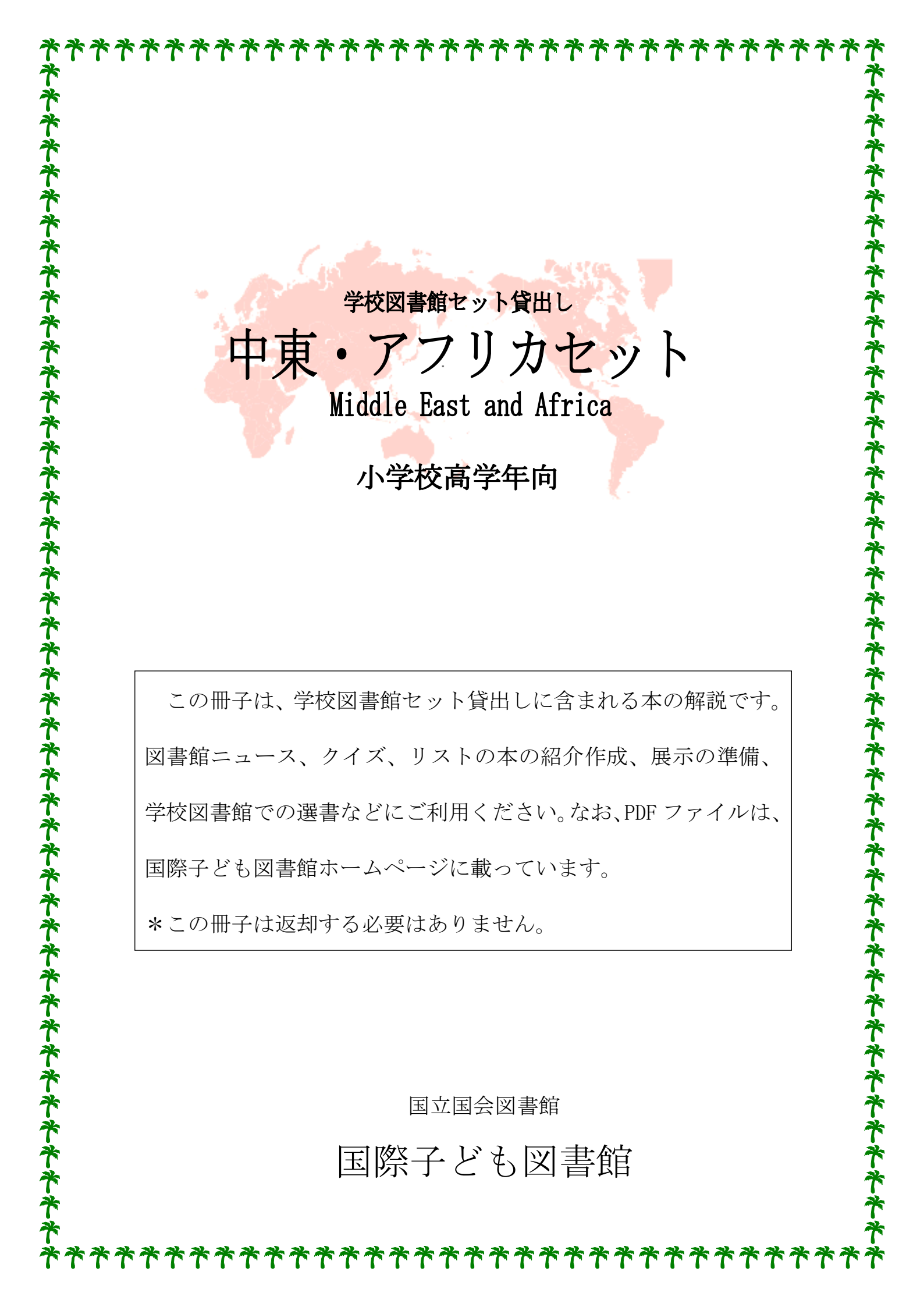




学校図書館セット貸出し

# 中東・アフリカセット

Middle East and Africa

小学校高学年向

この冊子は、学校図書館セット貸出しに含まれる本の解説です。

図書館ニュース、クイズ、リストの本の紹介作成、展示の準備、  
学校図書館での選書などにご利用ください。なお、PDF ファイルは、  
国際子ども図書館ホームページに載っています。

＊この冊子は返却する必要はありません。

国立国会図書館

国際子ども図書館

## シンドバッドの冒険

ルドミラ・ゼーマン 文・絵 脇明子 訳

岩波書店 2002

アラビアン・ナイトの中でも有名な「シンドバッドの冒険」を抜粋した絵本。鯨の島、ロク鳥、ダイヤモンドの谷などの話が繊細なタッチの細密画でわかりやすく描かれている。巻末に、アラビアン・ナイトについて簡単な解説がある。この本をきっかけとして、『アラビアン・ナイト』（岩波少年文庫）\*に収録する「シンドバッドの冒険」の全訳も紹介して頂きたい。 \*：セットに含まれております。

## ルガルバンダ王子の冒険：古代メソポタミアの物語

キャシー・ヘンダソン 再話 ジェイン・レイ 絵 百々佑利子 訳

岩波書店 2007 年

楔形文字で書かれた 4500 年前の物語。王子は戦へ行く途中で病気になるが、霊鳥から与えられた力と女神の助言で戦は終結する。物語を神秘的にうかびあがらせる絵は、画家が大英博物館のシュメール文明の展示品から学んだ。この絵本は、物語を粘土板に書いたシュメール人、発掘した考古学者、解説した研究者、本の作者といった多くの人の手を介して作られた。

## アラビアン・ナイト 上・下

ディクソン 編 中野好夫 訳

岩波書店 2001 年

シャフラザード姫が王様におもしろい話を千一夜続けて命をとりとめるという形式の昔話集。264 ある話の中から子どもが楽しめる 16 編を掲載。「明日も聞きたい」という王の所望がないと殺されるので、話はどれも山あり谷ありで展開が早く飽きさせない。「シンドバッドの冒険」\*は、絵本もあるので合わせて紹介していただきたい。 \*：セットに含まれております。

## アラブのむかし話：レモンの花よめほか（大人と子どものための世界のむかし話 16）

池田修，康君子 編訳

偕成社 1991 年

イラクやエジプトなど、半島周辺でアラビア語を話す諸国に伝わる 6 編の昔話を収載。自ら運命を切り開くことの大切さを説く「みじかいしっぽ」、遙かな未知の国日本に対するイメージがうかがえる「レモンの花よめ」など、物語からアラブ人やイスラム教徒の知恵や考え方、生き方が伝わってくる。読み聞かせにも使える。

## 子どもに語るトルコの昔話

児島満子 編・訳

こぐま社 2000 年

アジアとヨーロッパにまたがっているトルコは、人の動きが激しく、近隣諸国の影響も濃く多種多様な文化が花開き、そこで育まれたトルコの昔話は、豊かな色合いを醸し出す。その中から、ナスレディン・ホジャの困難を風刺や屁理屈で乗り切ってしまう笑い話、日本の一休さんのように頓知のきくはげ頭の男の子ケローランの話や旧約聖書を思い起こす「シカのお告げ」など 15 編を収録。

## モロッコのむかし話：愛のカフタンほか（大人と子どものための世界のむかし話 11）

ヤン＝クナッパート 編 さくまゆみこ 訳

偕成社 1990 年

学者が再話した『モロッコの神秘と奇跡のお話集』から、部屋の中にまた部屋がある「ひみつのとびら」など不思議な 9 編を掲載。物語には、当時の人々の習慣や風俗、イスラム教の教えが書かれ、民衆の暮らしがいきいきと伝わってくる。「妖精にそだてられたむすめ」は 10 分程の短い話なので、読み聞かせをすることもできる。

## ヨハネスブルクへの旅

ビヴァリー・ナイドゥー 作 もりうちすみこ 訳

さ・え・ら書房 2008 年

黒人居留地に住む姉弟は、重い病気になった幼い妹を助けるために、ヨハネスブルグで働いている母親を家へ連れて帰る決心をする。その 300 キロの旅で、二人は白人と黒人の生活の違いに気づき、自分たちの社会へ疑問を持つ。アパルトヘイトは 1994 年に撤廃されたが、人が人を差別することの悲劇と、このような不正と戦う勇気の尊さをこの物語は伝えている。

## イスラム教（国際理解を深める世界の宗教 3）

清水芳見 監修 佐々木ときわ、吉田忠正 文

ポプラ社 2005 年

## キリスト教・ユダヤ教（国際理解を深める世界の宗教 2）

土井かおる 監修 佐藤正光 文

ポプラ社 2005 年

中東地域のエルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地である。この本は、豊富な写真と平易な文章で、宗教をわかりやすく解説する。現在の国際情勢、中東地域の紛争を理解するためには宗教を知ることが必須である。

イスラム教は、中東からアフリカ北部を中心に中央、東南アジアまで広がり、世界総人口の 5 分の 1 がイスラム教徒である。コーランのカタカナ読み、礼拝法でイスラム教を体験できる。キリスト教は、クリスマスを導入に、イエス・キリスト伝、歴史、広まり方、儀式等を項立てる。アパルトヘイト政策に反対したツツ大主教についての記述もある。ユダヤ教は、教義、歴史、イスラエル建国、ユダヤ人のくらし、儀式等を項立て、ユダヤ教の道具、祭事の服装を写真でみることができる。

## ピラミッド：その歴史と科学

かこさとし 著

偕成社 1990 年

古代エジプトにおいて、なぜピラミッドが作られ、3000 年の歴史の中でどのように変化して廃れていったのかを、時代を追って総合的に解説する。ピラミッドの形や断面図、作成過程などのイラストも豊富で、理解の助けになる。著者は、ピラミッドが作られた事実は人の力の偉大さと未来への布石になると括っている。年表あり。

## エジプトのミイラ

アリキ・ブランデンバーク 文と絵 神鳥統夫 訳 佐倉朔 監修

あすなろ書房 2000 年

古代エジプト人がなぜ、どのようにミイラを作ったのかを描いた知識絵本。ミイラを作るようになった古代エジプト人の死生観と、ファラオ(王)たちのミイラを例にした、ミイラ作りの手順や墓に納めるまでが、解りやすく書かれている。豊富な絵は、古代エジプトの遺跡で発見された絵画や彫刻に基づいて描かれているので、当時の雰囲気が良くわかる。

## ぼくはマサイ：ライオンの大地で育つ

ジョゼフ・レマソライ・レクトン 著 ハーマン・ヴァイオラ 編 さくまゆみこ 訳

さ・え・ら書房 2006 年

マサイ族出身の著者が、村を出て勉強し、教職に就くまでを記す。生活を支える牛、大人への儀式「割礼」等の遊牧民の暮らしや、大半の子どもが退学する中で勉強を続ける心の葛藤、渡米までの道のりが描かれている。アメリカで教壇に立つ現在も年の半分は故郷ケニアで地域発展活動に貢献し、多くの遊牧民の子ども達に奨学金を提供している。

## 西アジア・アフリカ（総合学習に役立つみんなの世界遺産 4）

城戸一夫 監修 清原工 著

岩崎書店 2000 年

トルコやシリアの古代都市、マリの断崖、アフリカの国立公園などページをめくると全く違った様相の西アジア・アフリカの世界遺産を紹介した資料。歴史とともに、現在の様子も記されている。さらに理解を深めたい人のために、参考文献も紹介されている。巻頭の地図で位置と名称が一覧できるほか、巻末に各遺産についての短い解説あり。

## 西アジア（日本とのつながりで見えるアジア過去・現在・未来 6）

清原工 著

岩崎書店 2003 年

20 世紀に入り石油が産出し日本との関係が深くなった西アジアについて、古代から現代までの歴史や特色を、豊富な図や写真で紹介する。「二つの海」という意味のバーレーンなど 16 カ国 1 地域の国名の由来や現況も記す。バザー（市場）やキヨスクなど日本語になった西アジアの言葉よって子ども達に中東への興味を促すこともできるだろう。

## オマーンの子どもたち（世界の子どもたちはいま 14）

西村佐二 指導

学習研究社 2001 年

首都マスカット市内の小学校と、2 人の小学生の家庭や街での生活を紹介している。近代的な街並みや活気のある市場、カラーの教科書や絵つきの文房具、スクールバス、日本と同じようなおもちゃ等から中東の平和な国の裕福な暮らしがわかる。巻末には、子ども達の遊びや将来の夢などに関するアンケート結果が添付されている。

## ギョレメ村でじゅうたんを織る（たくさんのふしぎ傑作集）

新藤悦子 写真・文 西山晶 絵

福音館書店 1998 年

世界遺産で有名なトルコのカップパドキア地方にあるギョレメ村。著者はこの村に行き、絨毯を織る女性の一家と暮らすことにする。絨毯織り、畑仕事、食事、割礼、犠牲祭、学校の様子などが写真と絵を使いながら紹介されており、トルコの人々の素朴な生活をうかがい知ることができる。日本ではあまり触れる機会がないイスラーム社会の日常を子ども達にも分かりやすく、親しみやすく伝えている。

## サウジアラビア（体験取材!世界の国ぐに 38）

吉田忠正 文・写真 中村寛 監修

ポプラ社 2009

世界有数の産油国であり日本との関係も深いサウジアラビアについて豊富な写真を使って解説。お祈りの時間には店を閉めるなどイスラム教を中心とした暮らしや、食料を売る市場の様子、イスラム教徒のテーブルマナーも紹介。現地に住む日本人の子どもの作文や男女別学になる小学校の様子が載っていて、子ども達の暮らしも知ることができる。

## 砂漠のサイーダさん（たくさんのふしぎ 2009 年 5 月号）

常見藤代 文・写真

福音館書店 2009 年

エジプトの砂漠で遊牧民として暮らすおばあちゃん、サイーダさんの一日を紹介した写真絵本。家族と離れ、ラクダと共に砂漠を移動する彼女の遊牧生活は、自然と共存している。また定住地で暮らすようになった遊牧民の現状にも触れる。作者は日本人の女性写真家で、写真のテーマを探してアジア・アフリカを放浪中にサイーダさんに出会った。

## カメルーン（体験取材!世界の国ぐに 42）

渡辺一夫 文・写真 亀井伸孝 監修

ポプラ社 2009

カメルーンの国土には、熱帯雨林・サバンナから砂漠までアフリカの気候がすべてあるため、「ミニアフリカ」と呼ばれている。地理や暮らしなどを写真入でわかりやすく解説しているほか、礼拝や結婚式の様子からカメルーン人の陽気さが伝わる。また授業風景や人気のサッカーをする写真から子ども達の生活がよくわかる。

## ケニア（きみにもできる国際交流 14）

西江雅之 監修 こどもくらぶ 編・著

偕成社 2000 年

ケニアの子どもたちと交流するための基本的な知識を学ぶことができる本。交流の第一歩であるスワヒリ語での挨拶をはじめ、国の概略、学校生活、風俗・習慣などがわかりやすく紹介されている。ケニアに関するクイズや陸上選手の紹介、料理のレシピの項もある。同年代の子どもの生活に触れることで、アフリカに対する興味、関心が深まるだろう。



## 南アフリカ（体験取材!世界の国ぐに 43）

岡崎務 文・写真 峯陽一 監修

ポプラ社 2009

南アフリカの地理、自然、民族、文化、アパルトヘイトやその後の人々の暮らしについて豊富な写真とともに解説。子どもに人気のサッカーや学校生活のページもある。一つの国に多様な文化や宗教を持った民族や人種が暮らしていることがよくわかる。なお、アパルトヘイトについては、『ヨハネスブルクへの旅』\*に詳しい。 \*：セットに含まれております。

## アフガニスタン勇気と笑顔：写真絵本

内堀たけし 写真・文

国土社 2004

2001 年タリバン政権崩壊直後の当地に取材に入った著者が、子どもの姿を中心にまとめた写真集。戦車や銃が身近にある厳しい環境の下で、子どもたちは時に疲れた表情を浮かべているが、それ以上に明るく生命力に満ちている。著者の写真展を見た日本の子どもの感想が、アフガニスタン語併記で写真に添えられている。なお、当地の戦中、戦後の様子は、『私の大好きな国アフガニスタン』\*に詳しい。

\*：セットに含まれております。

## 私の大好きな国アフガニスタン

安井浩美 著・写真

あかね書房 2005 年

23 年続いた戦争が 2001 年に終結したアフガン。何度も生命の危険に遭遇し生き延びた一人の少女の目を通して、戦中・戦後のくらしを生々しく伝える。数百万個の地雷のほか、あちこちに戦争の爪跡が残り、文房具もない状況だが、学校に通う少女の目は輝いている。著者は、共同通信カブール支局で勤務の傍らアフガン難民の子どもの教育に関わる。

## はてな？なぜかしら？イスラム・中東問題（はてな？なぜかしら？国際問題シリーズ 1）

池上彰 監修

教育画劇 2004 年

日頃ニュースで目にする国際紛争を子ども向けに解説したシリーズの第 1 巻。イラク戦争、9.11 テロ事件、アフガニスタン戦争、パレスチナ難民などについて、原因（歴史、宗教、地理等）と経緯を説明している。本書だけでは戦争の実態が伝わらないので、『アフガニスタン勇気と笑顔』\*『私の大好きな国アフガニスタン』\*『ムスタファの村：イラク共和国』\*などの戦争の実際が分かる本と合わせて紹介するとよいだろう。 \*：セットに含まれております。

## ムスタファの村：イラク共和国（シリーズ核汚染の地球 2）

森住卓 文・写真

新日本出版社 2009 年

イラク南部に住む 9 歳の男の子ムスタファの村や家族を写した写真集。イラクでは、湾岸戦争後、劣化ウラン弾の影響が疑われる白血病やガンになる子どもが増えており、ムスタファもそんな子どもの一

人である。笑顔の写真からは、戦争の傷跡と共に日常生活を送るイラクの子どもも、日本の子どもと同じ子どもらしさを持っていることが感じとれる。

## エンザロ村のかまど（たくさんのふしぎ傑作集）

さくまゆみこ 文 沢田としき 絵

福音館書店 2009 年

水道も電気もないケニアのエンザロ村。その家にある三口のかまどは長年ケニアに住む日本人、岸田袈裟さんが考案した。このかまどで飲み水を煮沸でき、赤ちゃんの死亡率が激減した。村を訪ねた著者が、かまどの講習会や人々の喜ぶ姿、裸足の村人に草鞋の作り方を教える様子を素直な目で伝える。素朴な絵が文と絡みながら人々の生活を語る絵本。

## 学校に行けないはたらく子どもたち

### 1 アフリカ

### 4 中東・北アフリカ

田沼武能 写真・文

汐文社 2004

写真家である著者による、戦争や貧困などが原因で、生きるために働かざるを得ない子どもたちの写真集。家族の一員として農作業をしたり、外で見習いとして働いたりしている子どもたちの姿は、厳しい現実の中にあっても、たくましく生きる力に満ちている。各写真に添えられた一行程度の説明が、理解を深めるために役立つ。写真のほか、アフリカ・中東の地理、歴史、経済、教育水準等が簡潔に紹介されている。1は北アフリカ以外のアフリカ諸国。4は、イスラム圏の中東・北アフリカをまとめている。各巻ともキーワード索引あり。

## 写真に見るアフリカ・西アジアの風俗文化

齊藤隆 写真・解説

帝国書院 2008 年

豊富な写真を使って、国別に、アフリカ（マリ、ナミビア、エチオピア、モロッコ、チュニジア、エジプト）と西アジア（トルコ、シリア、ヨルダン、レバノン、イエメン）での人々の生活を紹介する。写真には解説が付く。ボディペインティングや色彩豊かな民族衣装を着て踊る人々の写真から、これらの地域の多様性を感じ取ることができる。

## いっしょにあそぼう：アフリカの子どもをあそび

イフェオマ・オニエフル 作・写真 さくまゆみこ 訳

偕成社 2007 年

現地の子どもの達実際に遊んでいる様子を見ながら、セネガルとナイジェリアの遊びや歌を知ることができる写真絵本。日本にもある手あそびや「あやとり」も紹介され、実際に遊ぶこともできるので、クラスや国際交流の場で遊ぶのも良いだろう。また遊び場や普段着の写真からアフリカの子ども達の日常に触れることもできる。

## 自然を共有して生きる動物たち（写真で見るたくましいアフリカの野生動物たち 2）

黒田弘行 著

星の環会 2004

ケニア自然公園・自然保護区に生息する多種多様な野生動物の生態誌。著者は元理科の教師。多くの哺乳動物が縄張の目印に糞を使うなどエピソードに満ちた文章と動物の生活の一瞬を切り取った多くの写真は、子どもの興味を惹くだろう。遊牧系の部族がすべての生き物と自然を共有している様子は、地球環境保護への示唆に富む。

## お父さんゴリラは遊園地

山極寿一 写真・文

新日本出版社 2006 年

野生のゴリラを約 30 年研究し、声に出して挨拶する著者が、ゴリラの本当の姿をとらえた写真絵本。ゴリラは、遊びが大好き。お父さんゴリラの周りには、まるで遊園地のように子ども達が集い、遊び、お父さんゴリラはやさしく子どもを見守っている。ゴリラの生態を通じて、アフリカの豊かな自然や生態を垣間見ることできる。

## アフリカンドレス

アフリカ理解プロジェクト 編

明石書店 2005 年

アフリカのファッションから料理のレシピまで、実際に作ってみることができるものをイラストや写真で幅広く紹介する。一般書だが、アフリカの民族布「カンガ」の着こなし方やアフリカ風ビーズアクセサリーの作り方など、子どもが手軽に実践できそうなものもある。生活科や家庭科の授業で紹介してアフリカを身近に感じて欲しい。

## エジプト：豆料理（国際理解にやくだつ NHK 地球たべもの大百科 10）

谷川彰英 監修

ポプラ社 2001 年

エジプトでは、何千年も前からナイル川の氾濫の関係で、保存のきく豆を使った豆料理が食べられてきた。現在でも料理に豆は欠かせない。食文化や食事時間など日常生活の様子とともにエジプトに関する基本的な知識も学べる。豆料理のレシピを見て実際に作ることもできる。エジプトに関する雑学クイズを生徒と楽しむのも良いだろう。

## 中東・アフリカのお菓子（どんな国?どんな味?世界のお菓子 3）

服部幸應，服部津貴子 監修・著

岩崎書店 2005 年

中東・アフリカのお菓子が写真とともに掲載されている。レバノンのミルクプリンや東アフリカのあげパンなど各国の昔から食べられて来た菓子を伝統的な作り方で忠実に紹介しており、実際に作ってみるのも面白い。食文化についても親しみやすく書かれており、子ども達が大好きなお菓子から、中東・アフリカ地域の文化に触れることができる。



## アフリカ・南アメリカの鉄道：ナイルエクスプレス・アンデスの鉄道（鉄道で世界が見える！）

秋山芳弘 著 こどもくらぶ 編

旺文社 2006 年

日本ではあまり知ることのないアフリカ・南アメリカの鉄道を扱った本。特に、エジプトの鉄道については、写真付きの乗車体験記や歴史等が掲載されており、鉄道から同国の暮らしぶりを伺い知ることができる。アフリカ（南アメリカ）の主な国の鉄道についても、車両の写真とともに、簡単な紹介がなされている。

## アラブとアフリカの音楽（国際理解に役立つ世界の民族音楽 4）

若林忠宏 監修 こどもくらぶ 編

ポプラ社 2003 年

ピアノの祖になったサントゥールや胡弓のもとになったケマンチェ等の民族楽器の写真とともに、楽譜や歌詞も掲載されている。音楽に深く影響を及ぼしている土地の風土や文化、歴史の解説も充実しており、ブルースやロックにつながるアフリカの演奏形式等、音楽が育まれてきた背景がわかる。楽器の音や歌は、付録 CD で聴くことができる。

## イスラム世界の文字とアラビア語（世界の文字と言葉入門 7）

八木久美子 監修 こどもくらぶ 著

小峰書店 2004 年

アラビア文字の形や発音、書き方などの基本を紹介する。大きな文字で書き順が示してあるため、初心者でも真似して書いてみるができる。また、アラビア語の簡単な言葉やアラビア数字とともに、エジプトの町や遺跡、イスラム教などについても写真入りで触れられている。巻末に用語索引と日本語からアラビア語への索引あり。CD 付。

## タンザニア民話とティンガティンガ：虹の七色どこからきたの？

宇野みどり 文 アブダル A. ムクーラ 絵

国際語学社 2005 年

タンザニアの昔話 6 編に、ティンガティンガというタンザニアの現代絵画の手法で描かれた色鮮やかな挿絵がついている。動物が出てくる民話には、最後に格言がつく。タンザニアの人々は、日常会話や子どもの戯に格言を用いる。巻末にはスワヒリ語の記載もあり、付属 CD で文字を見ながらネイティブによる柔らかな語りを聞くことができる。

## パパがサーカスと行っちゃった

エットガール・キャロット 文 ルートゥー・モエダン 絵 久山太市 訳

評論社 2005 年

## パパがサーカスと行っちゃった（ヘブライ語） 2000 年

パパとサーカスを見に行くと、パパがそのままサーカスに入ってしまうという内容のイスラエルの絵本。1 ページ目の絵が和書とヘブライ語版では異なるが、これは英語版が作られた際に絵が変更され、

和書が英語版から作られたためである。この作家の作品は、イスラエルの高校の教科書にも採用されている。画家は、イスラエル国内の児童書賞イラスト部門を二度受賞。

### ごきぶりねえさんどこいくの？

M. アーザード 再話 モルテザー・ザーヘディ 絵 愛甲恵子 訳  
ブルース・インターアクションズ 2006 年

イランで、よく知られた昔話の再話。大人になったごきぶりねえさんが旅をして、たくさんの動物に会い、最後に自分の居場所を見つける物語。イランは児童書の出版が盛んで、独創的で技術的にも優れた絵本が多数出版され、国際的な評価も高い。なお、ごきぶりねえさんの原語は、「ハーレ・スースク」で、日本のゴキブリを意味する言葉よりももう少し範囲が広い。

### にじいろのさかな

マーカス・フィスター 作 谷川俊太郎 訳  
講談社 1995 年

**Gökkuşığı Balığı** にじいろのさかな (トルコ語) 1992 年  
にじいろのさかな (ペルシャ語) [1994 or 1995]

美しい鱗が自慢の魚は孤独だったが、鱗を他の魚に分けて幸せになる。この絵本の光る鱗はホログラフィーと呼ばれる箔押し技術で印刷されている。国によって印刷技術に差があるため、和書とトルコ語版では光っているが、ペルシャ語版では通常の印刷である。またペルシャ語は右から左に読むため、ペルシャ語版は右開きで編集されている。

### برگرفته از شاهنامه فردوسی، رستم و سهراب (ペルシャ語)

#### ロスタムとソフラーブ\*

Vafayi Mansur 絵 Marjam Fuldvand 再話  
Tīhrān: Kānūn-i Parvarish-i Fikrī-i Kūdākān va Nūjavānān [2004]

イランの神話を集めた「王書 (シャー・ナーメ)」中の物語。ペルシャの英雄・ロスタムは、トゥーラーンの姫と結ばれて息子ソフラーブを得るが、のちにペルシャとトゥーラーン国とが戦ったときに、わが子と知らずにソフラーブと戦い殺してしまう。かつてのイランでは人々が集まる茶館で、こうした英雄伝説が弾き語りされていた。本書の絵は茶館の壁に描かれた絵の様式 (茶館様式) で描かれ、白い斑点は壁の絵の落剥を模している。

\*: タイトルは参考訳です

### Fati and the Honey Tree (英語)

#### ファチと蜂蜜の木\*

Osu Library Fund 著 Therson Boadu 絵  
Sub-Saharan Publishers 2002 年

ガーナの女の子、ファチの一日を描いた創作絵本。ある日、お父さんと一緒に畑へ向かう途中、ファチは疲れて一人で休む。お父さんは木登りを禁ずるが、お父さんが行ってしまうと、ファチは木に登り、

マンゴーや蜂蜜をとってしまう。本文はガーナの公用語の英語で書かれ、力強い筆致の写実的な絵は、ガーナの農村に住む家族の様子を映し出す。

\*：タイトルは参考訳です

### ハッサンのゆめ\* (アラビア語)

ヤコブ・エル・シャロウニー 文 ハニ・D・エル＝マスリ 絵

Elias Modern Publishing House 2004 年

アラビアの昔話や伝説をヒントに書かれた物語を集めた「シェヘラザード」シリーズの一冊。宝石商ハッサンが銅を金に変える貴重な物質を求めて砂漠のオアシスを探す話。画家は、エジプトで児童書最優秀イラストレーション賞(1979 年)、スザンヌ・ムバラク賞(2004 年)を受賞。

\*：タイトルは参考訳です

国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課 企画推進係

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

TEL: 03-3827-2053

URL: <http://www.kodomo.go.jp/>

2009 年 12 月